



ぶどうのささやき

36号

2024年
1月14日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

NPO 法人設立 20 周年記念特集号

“三浦半島 izm” を広げたい！

明けましておめでとうございます

現在、神奈川県横須賀三浦地域県政総合センターでは、黒岩知事の肝いりで、「三浦半島はイタリア半島プロジェクト」という政策を展開しています。このプロジェクトは、当初はイタリア半島との類似性や、地元農水産物とイタリア料理の食文化のマッチングなど、イメージ戦略を進めてきました。

このプロジェクトは、決して、“三浦半島をイタリア化”することではありません。両地域とも、自然や歴史、食を取り巻く環境に恵まれる一方、半島地域という地理的に不利な条件がある中で、強い地元愛を基に、地域の魅力を再発見・発信して、多くの人を呼び込もうとするものです。

また、この地域は、県内でも特に、人口減少にともなう、労働人口の減少が見込まれているところです。将来を見通すと、このままでは、これまで同様の地域コミュニティも成り立たなくなります。

また、異業種間はもとより、同一産業内での交流機会も減少して、人財という“地域活性化の起爆剤”が失われ、地域の経済活動の低迷に至りかねません。

この人間関係の希薄化という、経済の壁を乗り越えるためには、地域内外の事業者間の連携を深めるマッチングを進め、これを通して“地域活性化の起爆剤”となる人財を育成していくことが重要です。

そこで、今年度から当センターでは、「三浦半島みらいミーティング」を立ち上げ、地域で先進的な活動を行う事業者をつなぐマッチングを開始しました。

また、横須賀三浦地域は、侍文化のスタート(鎌倉幕府)から、ラストサムライ(東郷平八郎)までの歴史を辿れる地です。加えて、緑豊かで、様々な海の景色が織りなす自然に恵まれ、多くの観光客が訪れる魅力



神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター
所長 篠原 仙一のりかず

的な地です。

その一方では、宿泊客が少なく、観光客の滞在時間が短いことから、他の観光地に比べ、観光による経済効果も少ないという課題があります。

この課題に対しては、持続可能な地域経済を命題にして、イメージ戦略に留まらない、人を留まらせる、新たな取組みも必要です。イタリアの地域全体で観光客をもてなす、「アルベルコ・ディフーズ」は、そのヒントとなります。

そこで、当センターでは、“イタリアに学ぶ”をテーマに、三浦半島らしい新たな宿泊・滞在スタイルを提案し、観光客の滞在時間の延長につなげていくことを目標として、新規施策の検討を開始しました。

こうしたことにより、この地域の人と人との結びつきを強め、地域の魅力を発信し、三浦半島を深く愛する「三浦半島 izm(イズム)」を広げていきたい。

そしてこうした取組みが、人と人との交流や経済の活性化につながることを。加えて、三浦半島へのリピーターを増やし、移住・定住の促進の一助にもなれば、と考えています。

この取組みを成功させるためには、多くの企業や事業者の皆様のご協力が不可欠ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます

平素より当会の活動に対し多大なご支援、ご協力を賜り深く御礼申し上げます。

長きに渡ったコロナパンデミックもようやく落ち着き、社会、経済活動全般に活気が戻ってまいりました。

当会は昨年半ばより活動の円滑化のために支援方法を今迄の部会制から、個人会員がテーマ毎に自由に集まって横断的に支援を行うグループ制に変更し、この新たな体制で様々な企業支援や横浜市の第三者評価活動、市民の皆様を対象とした「なんでも相談室」や「こども自然教室」の開催、市内諸団体の行事への参加等を順調に積み重ねることができました。

先年12月には会の設立20周年記念行事として津久井湖にある城山ダム水力発電所の見学会を会員以外の方の参加も得て開催いたしました。

再生可能エネルギーの手本とも言える水力発電は構造はシンプルでも大変力強く、当施設は一般家庭8万戸分の電力を50年以上も供給し続けているとのことで、デジタル化の潮流に翻弄されている私のようなアナログ人間にとっては分かり易く何かほっとできる施設でした。

さて私共産業クラスター研究会は本年1月14日にNPO法人として設立20周年を迎えます。

今日まで長きにわたり当会が地域の皆様にも少しでもお役に立つ活動が続けて来られましたのは、ひとえに地域の様々な分野の皆様の温かいご支援とご協力の賜物と心よ

理事長 富野 養二郎



り感謝申し上げます。

発足当時はまだバブル崩壊の後遺症が残る頃で、多くの中小企業が新たな事業展開を迫られており、そのための新たな製品開発、海外進出や特許の取得、品質や環境ISO規格への対応等中小企業にとってはハードルの高い課題への挑戦に対し、親身に相談に乗ってくれる当会の存在は中小企業経営者にとっては大変心強く、ありがたい存在でした。

私はたまたま当会の発足当初より当会に所属させていただいておりますが、地域経済や社会のために役に立ちたいと言う高い志を持つ企業、教育、行政等のOB諸氏が集まり、まだ自前の事務所も無い中、近くのアナログで支援の在り方などを巡って熱い議論がなされていたことが懐かしく思い出されます。

中小企業が抱える課題は発足時から様々な変遷があり、昨今では技術的分野だけでなく経営手法そのもの、又社会生活全般にもデジタル化が急速に拡がって来ていることから、私たちも日夜情報収集や勉強を怠ることなく、皆様の様々な課題に真摯に向き合い、誠心誠意お手伝いするよう一層の努力を続ける所存ですので、これからも今迄と変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

【歳時記】 はつ夢

明けましておめでとうございます。

正月と言えば「一富士」。関東一円では遠くからでも富士山を眺めることができ、その名残で高層ビルの立ち並ぶ都内でも、各所に富士山の名前が残っています。広重の伝馬町錦絵にも富士山が描かれており、江戸時代には日本橋あたりからも見えたことが分かります。

逗子から三浦半島を横断して東京湾岸に引越す、富士山とはオサラバと諦めていた何年目かの快晴の正月、毎日散歩している裏山の向こう側の尾根の先に白く輝くものが入りました。ひよっとしてと、双眼鏡を覗くと、富士山の白い山頂が目に入り込んできました。「腐っても鯛」ならぬ、「先っぽでも富士山」の山頂の眺めは感激モノでした。以来、我が家の正月の行事として、このささやかな「お年玉」を楽しんでいます。

「一富士」とくれば、「二鷹」ですね。

鷹と言えば絶滅危惧種に指定されているオオタカが有名ですが、鷹の仲間には意外と身の回りにいます。

東京湾でも、ミサゴに会えます。英語でオスプレイと呼ばれるこの鳥は、元祖の名に恥じず空中で停止する事が可能で、ホバリングから急降下し水中の魚をダイビングキャッチする様子は壮観です。米軍基地のある吾妻島に棲んでいるミサゴが、対岸の深浦湾まで漁に来て、瞬間ですが完全に水の中に潜っていました。写真はちょっと粒子が粗いのですが、魚を両足で掴んでいるのがわかります。

ミサゴ以外では、ハイタカもよく見かけます。冬の良く晴れた空を飛翔するスマートな姿だけでなく、カラスに追い回される哀れな様子も目にします。

たまには顔を上げて、空をゆっくり眺めて見ませんか。「三茄子」、富士山を拝んで、鷹を見上げた後は、スーパーに行つて茄子を買って帰りましょう。(清)



NPO 法人 産業クラスター研究会 設立 20 周年

設立 20 周年に寄せて

認定 NPO 法人産業クラスター研究会が、設立 20 周年を迎えられましたことに、まずは心よりお祝い申し上げます。

20 年の長きにわたり、NPO 法人としての活動を脈々と受け継いでこられた富野理事長をはじめ、歴代理事長の皆様、そして役員、会員の皆様のご尽力に、深く敬意を表します。

貴会におかれましては、平成 16 年の設立以来、会員の皆様がそれまでに培われてきた豊富な経験、知見を活かし、様々な分野で市内の中小企業支援や公益活動を実施されてきました。

特に近年においては、企業と IT 専門家の間に立ち、まさに通訳の役割を果たされるほか、地域中小企業のデジタル化の一助となることを目的に、勉強会を立ち上げられるなど、地域の企業の経営改善の推進に向け、多くの取り組みを実施していただいております。

このような貴会の活動は、DX の必要性は理解されながらも、どのように対応すればよいか不明瞭な中小企業にとりまして、非常に心強いものであり、横須賀市全体の中小企業支援として、とても有難く思っております。

「産業クラスター研究会」設立 20 周年によせて

この度、認定 NPO 法人「産業クラスター研究会」が、設立 20 周年を迎えられましたことに、心よりお祝いを申し上げますとともに、富野理事長並びに歴代役員・会員の皆様方のご尽力に、深甚なる敬意を表する次第であります。

貴会は、平成 15 年 8 月に、行政・大学・産業界などで活躍したシニア有志が、その知識・経験・人脈を地域経済の活性化に役立てることを目的に任意団体として創立、その後、平成 16 年 1 月には、内閣府認証 NPO 法人に認定され、横須賀・三浦地域や近隣地域を対象に地域経済の活性化を目指す事業型 NPO としての活動をスタートされました。爾来、中小企業支援のほか、横須賀市からの協働事業の受託、環境事業支援など、地域産業の課題解決をサポートされてこられました。

また、平成 16 年度より事業を開始いたしました米海軍基地と地域企業のビジネスマッチングを支援する当所の「横須賀ビジネスパートナー」事業におきましても、事業

横須賀市長 上地 克明



さて、横須賀市においては、昨年 4 月に「横須賀市スマートシティ推進方針」を策定し、特に市民の生命、安心、幸福に直結する健康分野を皮切りに、スマートシティの実現を推進しています。

これは市民の誰もが、テクノロジーの恩恵を享受し、「暮らしやすさ」と「つながり」を実感できる「誰も一人にさせないまち」の実現を目指すものです。

貴会の活動は、これら本市の取り組みを進めていく上で、大変力強い後押しであると感じております。今後も皆様のシルバーエイジのエネルギーとパワーを、市内中小企業をはじめ、地域経済の発展にお役立ていただきたく、変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますのご発展を心より祈念いたしますとともに、皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

創立 20 周年、誠におめでとうございます。

横須賀商工会議所

会頭 平松 廣司



開始当初より、“取引にかかる入札から応札までの翻訳・通訳・相談サポート業務”を貴会会員の卓越した技能により、数多くの企業の取引成立を支援していただきました。改めて、感謝申し上げます。

人口減少・人手不足による、都市活力の減退が大きな課題となっておりますが、シニアの豊富な経験と多様なネットワークを活用された貴会が担う役割は、今後も、地域企業の発展に貢献されることと存じます。

当所といたしましても、更なる連携を図っていく所存でございますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

結びに、産業クラスター研究会の益々のご発展と会員の皆様のご繁栄を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

法人会員のひとこと

ANA テック株式会社

代表取締役 安藤 知史

20周年おめでとうございます。これまでの卓越した貢献に感謝し、産業クラスター研究会の未来を心より期待しています。



株式会社 オーバル

横浜事業所長 新國 誠治

20周年誠にありがとうございます。今後も良きパートナーとしてよろしく願いすると共に、皆様のご健勝と貴会の益々のご発展を祈念しております。



かながわ信用金庫

理事長 平松 廣司

設立20周年、誠におめでとうございます。今までのご功績に敬意を表すとともに、皆様の益々のご発展を心よりお祈り致します。



有限会社 小山防災

代表取締役 小山 哲史

この度は20周年をお迎えされましたこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今後とも、さらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

株式会社 佐藤船舶工業

代表取締役 佐藤 仁

いつもお世話になっております。20周年おめでとうございます。団体と協力の証だとも思います。今後の繁栄心から祈っております。



株式会社 芝技研

代表取締役 福島 健太郎

20周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。未来に向けてますますのご発展をお祈りいたします。

太南工業株式会社

代表取締役 鈴木 順

設立20周年おめでとうございます。20年という区切りの時期を迎え、心よりお祝い申し上げます。今後の発展を祈念しております。

有限会社 湘南安全硝子

代表取締役会長 濱田 徹

20周年おめでとうございます。今後の益々のご発展を祈念します。

ProGATE 株式会社

取締役社長 田中 僚史

20周年を迎えられ、おめでとうございます。20年前、海の向こうで、イチローが日本人初の大リーガー外野手となり、今、大谷翔平が大リーグで大活躍しました。ここ3年、世界的なパンデミックを皆で乗り越えました。法人会員みなさんで、新たなステージのスタートを心よりお祝い申し上げます。

ヘリオス株式会社

代表取締役 林 卓一

20周年おめでとうございます！心よりお祝い申し上げます。今後とも益々のご発展を祈念しております。



横浜製機株式会社

代表取締役 古川 史朗

20周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。今後の益々の発展とご関係者の皆様のご多幸を祈念しております。



株式会社 横須賀軽金

代表取締役 小野 仁志

20周年おめでとうございます。今後とも更なる発展を心より期待しています。

菱和工業株式会社

代表取締役 大村 裕司

中小企業支援のために尽力された貴重な20年を迎えたことを心から祝福申し上げます。これからも変わらぬ情熱と努力で、更なる成果を上げて頂けることを心から願っています。おめでとうございます！



NPO 法人 産業クラスター研究会 20 年のあゆみ

年月	変遷	
2003 年 8 月	任意団体「産業クラスター研究会」創立	
2003 年 9 月	Web サイト開設	  経営セミナー
2004 年 1 月	経済関係の内閣府認証 NPO 法人として設立	
2007 年 4 月	横浜事務所開所	
2007 年 11 月	横浜市協働事業受託	
2008 年 5 月	会報誌「ぶどうのささやき」創刊	 よこすか産業まつり
2009 年 7 月	経営セミナー開始	
2009 年 12 月	経営者交流会開始	 観音崎モノづくり教室 (よこすか元気ファンド)
2010 年 2 月～	神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間参加セミナー開催開始	
2010 年 11 月	環境事業部会設立 よこすか産業まつり 2010 参加	
2011 年 5 月	Web サイトリニューアル (WP)	 エコ教室@金沢小学校
2011 年 11 月	認定 NPO 法人の取得	
2012 年 4 月	NPO の所轄が内閣府から神奈川県へ	 情報セキュリティセミナー
2012 年 8 月～	よこすか元気ファンド事業開始	
2013 年 5 月	横須賀市市民協働推進セミナー受託	 いまさら相談室
2013 年 2 月	神奈川県印刷工業組合 PISM 審査開始	
2014 年 5 月	横須賀市市民協働推進セミナー受託	 理科教室
2014 年 6 月	第一回金沢区環境にやさしい活動表彰 / 金沢小学校&横須賀市小学校 [エコ教育]	
2014 年 12 月	横須賀市指定 NPO 法人の取得	 横須賀市表彰状
2015 年 11 月	情報セキュリティセミナー開催開始	
2016 年 5 月	横須賀市市民協働推進セミナー受託	 SECURITY ACTION
2016 年 7 月	認定 NPO 法人の認定更新	
2017 年 4 月	いまさら相談室開設	
2018 年 1 月	横須賀市指定 NPO 法人指定更新	
2018 年 3 月	理科教室開催 (小学校での出前理科教室)	
2019 年 4 月	横浜市指定管理者第三者評価機関認定	
2021 年 1 月	メルマガ創刊	
2021 年 2 月	横須賀市市民表彰	
2021 年 4 月	認定 NPO 法人の認定再更新	
2023 年 5 月	DX デジタル研究会設立	
2023 年 8 月	SECURITY ACTION 「二つ星」宣言	
2024 年 1 月	設立 20 周年	

NPO 活動 各グループ 20 年のあゆみ



経営・業務改善グループ

佐々木 興吉

始まりは当会発足時の企業支援部会でした。地域経済の発展に寄与するという当会のミッションに基づき中小企業の業務改善支援・工場改善支援・技術支援、ISO 認証取得支援、特許・実用新案・商標登録申請支援を行うということでスタートしました。当会を構成するのは個人会員と地域の中小企業を主体とした法人会員です。個人会員は企業や官庁のOB、OGです。長年 企業や役所で培った専門分野の知識と技術を生か

し、まずは法人会員の課題解決を通して地域経済の活性化に寄与しようという中でこの活動は当会の柱です。支援先は法人会員に限らず自ずと会員外にも展開。中でも 2007 年に横浜市より受託した「横浜経済の新たな担い手創成事業」は 3 年間にわたり横浜地区の中小企業訪問社数 150 社におよぶ大きな仕事でした。

支援先の要望や課題は時代とともに変化してきました。それにともない会内の体制も変遷し、IT・ホームページ制作支援、特許・実用新案・商標登録取得支援事業は新部会に

分化し、ISO 認証取得支援は新設の環境事業部会にて取組むようにしました。また、2020年には企業支援部会と環境事業部会を統合し企業の持続性ある経営管理に対応してSMS(Sustainable Management System) 支援事業部会と名称を変更し、さらに2023年には横浜市の受託事業(第三者評価事案)を分化し、企業支援活動は経営・業務改善グループとして再編しました。

支援の方法も個別課題の支援ではなく多岐にわたる課題を一括して支援をするという方法や企業が持続・存続できるよ

うに支援を展開するという、無償支援の必要性など熱心な議論を回転させながらやってきました。コロナ禍の3年間は企業同様 活動の停滞があり前進するにはどうするかの議論は必然でしたが、リモート対応という副産物は情報の共有化、時間の有効活用など貴重な財産として展開して行く状況となっています。

部会の名称や中味は変わり、20年間の変化の軌跡はさまざまありましたが地域経済の活性化という目的は不変です。今後も企業の課題と解決の媒体となって活動して行くことができるかが問われていると思います。



業務受託グループ

金子 賢一

業務受託の中に「横浜市指定管理者制度の第三者評価」があります。

「多くの地方自治体では公会堂、コミュニティハウスなどの施設の管理を、多様化する市民ニーズに対応するとともに、民間のノウハウを活用しながら経費の節減を図ることを目的に、民間事業者に委託しています」。横須賀市でも、市民交流プラザ、ヴェルク横須賀など、多くの施設が民間委託です。

受託会社のことを指定管理者と言いますが、横浜では、5年間の委託期間中に一度、指定管理者のパフォーマンスのチェック(評価シート)を、認定を受けた外部の第三者評価機関が行います。

当産業クラスター研究会は、15 機関ある第三者評価機関の一つとして、指定管理者の評価を行っています。当会にはコーラスを趣味とするメンバーが多く、コーラスグループの

ご縁で、評価に携わっている大学の先生を紹介いただき、その先生のお手伝いが始まりでした。

先生のもとで審査の経験を積み評価員有資格者も増えたので、独り立ちして第三者評価機関として2019年に登録し、現在まで8施設の評価を行ってきました。

当会の評価方針は、利用者サービスの向上と施設設置目的の達成に繋がり、施設運営の継続的改善が進むような課題と施策を考えた提案を主眼にしています。お陰様で、以前評価した施設の指定管理者様から、管理している別の施設評価のリピート依頼をいただいています。

本審査機関は評価員による、「事前調査」と「本審査」を利用者の立場になって評価をします。「事前調査」は施設内外の構造物及び掲示物等の調査、「本審査」は評価シートによるパフォーマンスのチェックです。特に「本審査」の結果は区役所経由で横浜市の共創室で取り纏めて横浜市のHPで公開されます。「活動理念」や「活動方針」についても横浜市のHPをご覧ください。



HP・IT・特許グループ

片平 悌一

当グループの業務は主に次の3つに分類されます。

(1) HP 関係

本業務はWordPress(HP制作ソフト)により企業や各種団体のホームページ制作支援をしております。

当初は経験者がおらず、業務をこなしながら知識や技術を習得して参りました。

当会が任意団体として創立されるとともにHP部会を設立しHPを自主制作いたしました。その後、会報誌発刊を契機にHP部会を合併して広報部会が設立されましたが、企業からのHP制作業務の受注を機会に、再度HP部会とし独立し企業向けHP制作支援事業を開始しました。

2011年 当会のHPを新たにWordPress(WP)でリニューアルし、WPによるHP制作の知識と技術を蓄積することで、WP採用のHP制作支援事業の受注に成功しました。

以後、HP制作と更新支援事業を継続しております。

(2) IT 関係

2017年4月 IT中心のいまさら相談室を開設。以後継続しています。

(3) 特許関係

作業内容は知的活動により生み出された産業財産の権利化です。産業財産権とは産業財産に独占権を付与し模倣の防止、研究開発の促進、信用向上を図ることを目的とする権利です。

当会設立後2014年まで企業特許部出身者により、特許調査や特許申請支援を開始。2014年以後は特許実務経験者が加入し2名体制となり、以後継続しています。

業務内容は新規技術の特許権または実用新案権化、新デザインを意匠権化もしくはネーミングおよびロゴマークを商標権化するための、先行技術調査、出願書面の作成および特許庁に対する応答等30件ほどになります。

これらの案件の中には、翻訳・通訳グループと協力した国際特許出願、国際意匠出願も含まれます。

(4) その他

その他にもマニュアルやカタログ、社内報の作成等企業からの依頼に応えるべく作業しています。



情報セキュリティグループ

樋谷 祐一

情報セキュリティグループの誕生は「環境事業部会」に遡

る。2012年、コーラスグループの縁で紹介された大学の先生が携わっていた横浜市第三者評価業務の一部を業務委託され、当会会員が評価員として参加したことが始まりであった。

さらに全国印刷工業組合連合会の CSR 審査、神奈川県印刷工業組合の情報セキュリティマネジメントシステム (PISM) の審査業務も委託された。

PISM 審査業務は 2013 年度に開始され、2 社の認定が行われた。審査では、マネジメントシステム (MS と略) の構築と運用状況を確認した。その後、当会で各種資料を提供し、審査を担当しない会員が PISM の構築や従業員教育の支援をすることで、受審企業が増加し、2016 年度 3 社、2017 年度さらに 3 社が認定登録された。2018 年度からは審査業務は当会が担当し、認定登録業務は神奈川県印刷工業組合が引き続き行うことになった。コロナ禍の影響や経営変化で登録抹消した企業もあり、現在、登録継続企業は 8 社である。

当グループでは審査業務のほか啓発活動としてマイナンバー制度が開始される前年 2015 年 11 月に情報セキュリティに関する第 1 回のセミナーを開催し、オンライン会議も併用しながらほぼ毎年実施し今年で 8 回目を開催した。また公共支援活動の一環として、スマホのセキュリティセミナーも 2 回開催した。今年度は当会自体のセキュリティ確保のためプロジェクトチームで IPA (独立行政法人情報処理推進機構) の推奨する SECURITY ACTION (SA) に取り組み二つ星を宣言した。おりしも横須賀商工会議所が“YOKOSUKA 情報セキュリティプロジェクト&お助け隊サービス”を発足させたので、横須賀商工会議所と連携し、PISM 及び SA の経験を、中小企業が SA 等情報セキュリティに取り組む際の支援活動に生かしていきたい。



公共支援グループ

堀込 孝繁

認定 NPO を取得して、新しい公共支援活動が要請され、2012 年 8 月に個人会員を講師として「注文を取るコツを教えます」の題名でセミナーを開催したのが本活動の始めです。

その直後の 2012 年 12 月に新しい公共支援部会が設立され、2023 年に公共支援グループと名称変更をしました。

最近では、タイムリーな課題に対応した講演会やセミナーを開催しています。最近では、「コロナ下サイバー攻撃被害の実態と対策」と題する情報セキュリティセミナーや、横須賀市役所と連携して町内会・老人会に出張する「スマートフォンのセキュリティ対策を学ぼう」、さらには法人会員経営者の講話を聴く「経営者交流会」を開催しました。

「いまさら相談室」は、夕入の横須賀市市民活動サポートセンターにおいて、月に 1 回「今さら人に聞けないことで困っ

ている」一般の市民を対象に、例えばパソコンやスマートフォンの操作、団体や NPO の運営面での悩み、英語の翻訳、確定申告の方法、生命保険など、さまざまな相談に対応しています。

次に、「こどもものづくり教室」は、横須賀市の「元気ファンド」補助金対象事業として、観音崎自然博物館の協力を得て毎年秋に開催しています。あらかじめ用意しておいた貝殻やドングリ・松ぼっくりなどを使った自由な工作を、こどもたちとその家族が楽しむことによって、横須賀の自然への理解を深めてもらっています。

また、普段は立ち入ることが難しい企業や研究所・工事現場などへの見学会をはじめ、企業間の交流を深める活動を広く参加者を募って行っており、これからも県・市・関係機関と連携して進めていきます。



翻訳・通訳グループ

仲田 清

翻訳・通訳グループは、2004 年の産業クラスター研究会設立後まもなく活動を始め、在日米軍入札支援、技術文書翻訳、輸出入業務・海外進出のコンサルティング等、企業の海外関連ビジネスの活性化のお手伝いをしています。下図のように米軍入札支援の比率が高く、一般海外案件翻訳・通訳、海外特許申請や HP 作成支援に付随した英文化支援、さらに最近では、外国人実習生への英語による導入教育などの支援も行っています。

在日米軍入札は、当会では、横須賀商工会議所の『ビジネスパートナー』事業に協力し、業者登録から入札・受注・完工・引渡しまで、法人会員様等に通訳・文書翻訳等のお手伝いをしています。在日米軍入札は英文契約を伴う電子入札であり、慣れるまでは英文読解と文書作成など相当の時間と労力が必要です。このためか新規入札参加が減少気味なのですが、米軍調達ビジネスは比較的景気に左右され難いビジネスで、かつリピート受注の可能性が高いので、検討されてはいかがですか。私たちもお手伝いします。

グラフのとおり、最近支援依頼が減少気味ですが、Google

翻訳、DeepL 翻訳など優秀な翻訳ソフトの普及と関連がありそうです。プロも下準備に活用しているそうです。翻訳ソフトは日々進化しており、英語だけでなく様々な言語が身近になると期待されます。



便利な翻訳ソフトですが、参考に使う場合はよしとしても、正式書類に使う場合は、ダブルチェックするなど慎重に使用してください。特に専門用語には弱い感じがします。

最近、外国人技能実習生に対し、実習先から英語による導入技術教育を依頼されました。制度の変更に伴い、今後外国人労働者の増加が予想されますが、来日直後の日本語が不自由な人たちへの最低限の技術教育が課題になる可能性があります。

私たち産業クラスター研究会のメンバーは英語でのビジネス経験だけでなく、各種業界での実務経験が豊富で様々な商業・技術文書の翻訳や初期教育に対応ができますので、気軽に相談してください。

トピックス

20周年記念事業 城山発電所見学ツアー

昨年12月7日、20周年記念事業の一環として、神奈川県企業庁城山発電所(相模原市)の見学を行いました。総勢18名は3班に分かれて見学。エレベーターで2分、230m降りると大きな空間にオレンジの巨大な機械が4基、並んでいました。1号から4号の励磁機が据え付けられている発電電動機室でした。階段を降りていくとまた巨大なトンネルが出現。約500mで地上に通じており丁度大型台車が補修員と一緒に地上に向かって昇って行きました。発電機を組み立てたり修理したりする時に大きな部品を運ぶ台車です。さらに狭い階段を降りると意外と小さい空間が水車室。水車の回転部分とその周りとのすき間はたったの1mmとのこと。しかし回転する水車は周りにぶつかりません。巨大、頑強な構造物ながら微妙にコントロールされ運転されることが不思議。水車室の横には直径約3mの水圧鉄管が細い通路を横切っている。上池の城山湖から下池の津久井湖への約250mの放水路です。揚水時は発電機を逆回転して下池から上池に揚水します。運転をしていない時は入口弁が閉まるようになっています。そして最後に発電され

た電気は電力ケーブル24本でエレベーター抗に沿って地上へ。ケーブル1本の重さは約5トンとのこと。全部で120トンの重量を上部で支えている。電気は屋外の変電設備で昇圧して東京電力に送られます。

出力25万kW、使用開始は昭和40年。地上の発電所建屋からは思いもつかない地下の発電電動機室、そして水車室。上池と下池を繋ぐ巨大放水路。あたかも地下の堅牢な要塞のごとくであり、建設には4年の歳月を要したそうです。よくこんなものを地下に造ったと驚きを覚えた貴重な体験でした。

城山発電所は全国各地の大型揚水発電所の先駆けとなり、また城山ダム湖は洪水調整の働きもします。丁寧に案内と説明をいただいた職員の方々、また 日常管理、保守点検をされている現場の方々への感謝と同時に県民の生活を支える発電所、ダムを建設した先人への想いが偲ばれる晩秋の一日でした。

(事務局 佐々木 興吉)



発電電動機室

事務局からのお知らせ

2023年度下期は企業支援活動並びに次に記載の通り精力的に公益事業に取り組んでいます。

- 2023年10月21日 横須賀商工会議所主催「よこすか産業フェス2023」に出展参加。
- 2023年11月12日 横須賀市立市民活動サポートセンター他主催「生涯現役フォーラム」に出展参加。
- 2023年11月26日 観音崎自然博物館と横須賀市立中央図書館郷土資料室のご協力を得て、観音崎公園において2023年度よこすか元気ファンド事業「ものづくり教室」を開催しました。例年のように多数の親子の参加がありました。
- 2023年11月27日 企業向け「第8回情報セキュリティセミナー」をオンラインにて開催し、活発な意見交換をしました。
- 2023年12月7日 NPO法人設立20周年記念行事として、神奈川県企業庁の城山発電所の現場見学会を開催。当日は県職員の皆さんの丁寧な説明と案内がありました。詳細は前記トピックスを参照ください。
- 2023年12月15日 第3回理事会を開催。2023年度上期活動実績と下期活動状況の報告があり、また運営規定の改訂が提案され審議・承認されました。
- 本年1月はNPO法人設立から20年となりました。来る2月16日(金)には細やかですが産業交流プラザにおいて感謝の20周年記念行事を開催します。

すでにご案内中ですが多数の参加をお待ちしています。

(事務局)

羅針盤

昨年の夏は連日、全国各地から高温の記録が報道された。観測史上初の高温記録などと数値で伝えられる情報とともに、地球上の各地から映像で送られてくる自然環境の激しい変化は、いよいよ地球温暖化による現象が現れているのであろうか? 人類が自分たちの営みの結果、自らの生活環境を破壊し、子供たちの将来を閉ざそうとしている。

2022年2月ロシアのウクライナ侵攻、2023年10月のパレスチナ・ハマスの奇襲攻撃に端を発したイスラエルの過激な反撃は、人類(一部の指導者)が歴史に学ぶことなく破壊と殺戮を繰り返している現実を伝えている。何より大切なはずの人の命を犠牲にして何をしようとしているのか? 取り消すことのできない事実をごまかす

ことなく伝える責任がある。

21世紀はデジタル技術の進歩により、高速・大容量通信が可能となっている。さらに収集した大量な情報を瞬時に分析し、加工して有効な技術として利用するサイバー&フィジカル(CPS)時代に入ったと言われている。従来個人の知識、経験、勘をもとに個別最適で運用してきた社会のあらゆるシステムに対して、多様・大量な情報収集とAI技術の活用により全体最適化を図れることで、「あらゆる社会システムの効率化」「新産業の創出」「知的生産性の向上」を目指している。

日本は少子高齢化の状況になり、そのためにあらゆるジェネレーション、ジェンダーがこの新しいデジタル技術を活用することで、快適な社会で豊かな人生を過ごせるように、20年続けてきたシニアの経験を伝承する活動をさらに加速していきたい。(俊)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先 : 046-847-6355

E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：富野 養二郎